

国道8号の渋滞問題

Q 国道8号バイパス整備について

A 国に対して強く要望していく



森野 隆 議員

答 (町長)
昨今の物流の増加に伴い交通量が増し、国道8号の朝夕の慢性的な渋滞とその影響が

全国的にみて滋賀県は道路整備が非常に遅れているように感じるが、慢性的な渋滞を解消するための今後の町長の考えについて問う。

当町では、御幸橋を先頭に慢性的な渋滞が発生し、地域の産業復興や生活道路としても重大な影響があることから、早期の整備が必要と考える。

特にこの国道8号は、災害時など、滋賀県の緊急時輸送道路に指定されており、湖東地域や愛荘町にとっては名神高速道路と共に基幹道路として重要性を増すこととなり、災害に強い県土構造の実現が不可欠である。

問 国道8号は一日約二万台が通る国土の幹線道路として、地域経済や産業の発展に欠かすことの出来ないものである。

慢性化する国道8号の渋滞を解消するために



慢性化する国道8号の渋滞

ら生活道路へ通過車両が進入しているため、居住者や通学児童の安全性の確保が懸念されている。

また、渋滞を緩和させる対策として、現在滋賀県では、県道神郷彦根線、県道湖東彦根線(愛知川右岸道路)の道路改良事業を進めている。特に県道神郷彦根線については、愛荘町と東近江市を繋ぐ幹線道路として整備されることから、2024年に開催される滋賀国体を見据えた湖東地域の渋滞緩和に効果があるかと期待している。

問 インフラ対策を行うには、財源の確保が重要であると思うが町長の考えは。

答 (町長)
国道8号バイパス整備については、交通混雑の緩和などを目的として、平成27年度より道路調査に着手されている。また、来年度以降の道路整備予算についても、早期に対応方針を決定され、物流機能強化を含めたバイパスの概略ルート選定と構造検討等を進めていただき、政府予算において所要額を確保されるよう国に対して県や近隣市町と連携しながら強く要望していきたいと考えている。

愛知川駅前景観整備について

Q 景観整備事業が町総合計画に位置づけているか

A 道路の拡幅や歩道整備は位置づける



村岡 定 議員

景観整備事業について

問 愛荘町の西玄関口は愛知川駅で、愛知川の中心地である。町づくりを考えるのであれば、他のハコ物より先に取り組む必要がある。町の総合計画に位置づけされているか。

答 (産業建設部長)
愛知川駅周辺道路の拡幅や歩道整備は、位置づけされているが、駅前景観整備事業については計画されていない。

問 歩道から近江鉄道の敷地までの残地について、町はどのように考えているのか。

答 (産業建設部長)
近江鉄道敷地までの残地を活用した事業計画はしていない。

近江鉄道の見通しについて

問 近江鉄道が、鉄道経営を同社単独で維持することが、将来的に困難になるという見通しを沿線の自治体に伝えている。赤字が続

ている上に設備の老朽化で維持コストが増すため、沿線5市5町で存続に向けた協議の呼びかけをしてきた。住民の交通手段として、通学駅として無くてはならない。町は将来をどのように考えているか。

答 (総合政策部長)
沿線5市5町と「近江鉄道に関する勉強会」を開催し情報共有をしている。

本町にとって唯一の鉄道で、住民の生活に関わる公共交通として大きな位置を占め



近江鉄道 愛知川駅

県道湖東愛知川線の道路拡幅と歩道の整備事業について

問 この県道は、愛荘町の幹線道路である。道幅の大変狭い道路で、バスも通っており、登下校の通学道路である。交通量の多い危険な道路であるため、歩道の新設を求む。

しており、存続は必須と考えている。沿線市町と共に協議していく。

答 (産業建設部長)
道路幅員が狭く、交通量も多く、大型車両(バス)が通行するため、すれ違いが困難な危険な状況であると認識している。登下校する児童生徒の安全確保のため、歩道の整備は必要不可欠であると認識しており、県に対し強く要望していく。

問 高齢者が安心して元気に暮らせる町づくり推進について町の対策を問う

答 (住民福祉部長)
「緊急事態に対応する通報システム」や「食事の配達」などを展開している。地域包括ケアシステムの強化を図りながら、一人暮らし高齢者を含めた、高齢者支援を進めることとしている。